

(大阪東北部)

大阪・森の宮遺跡

もりの
みや

所在地 大阪市中央区森ノ宮中央

2 調査期間 一九九五年(平7)1月~6月

3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会

4 調査担当者 小田木富慈美・平田洋司

5 遺跡の種類 貝塚・集落・水田跡

6 遺跡の年代 縄文時代中期~江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

森の宮遺跡は上町台地の東縁に位置し、縄文時代後期~弥生時代

中期の西日本でも有数の規模をもつ貝塚として知られている。

今回の調査地は縄文時代

には河内湾、河内湯の内部
であり、土器とともに堅櫛
や蔓を巻き付けた石錘など

珍しい遺物が出土している。
飛鳥時代にも低湿地で、

居住に関わる遺構はなく、
自然に形成されたと推定さ

れる溝が検出されたのみで

ある。木簡(1)~(3)はこの溝から出土した。七世紀後半~末の土師器・須恵器のほか、斎串・舟形などの大量の木製品や馬・牛などの獣骨も多数出土し、西に位置する前期難波宮との関連も注目される。中世以降も低湿な場所であり、耕作地として利用されている。木簡(4)は石山本願寺期の導水用と推定される溝から見つかった。共伴遺物には少量の青花・土師皿がある程度である。

8 木簡の糸文・内容

(1) 「▽米入

(2) 「▽□□粟

(3) 「▽□宅

(4) 永正十六年七月

(65)×26×4 039

(97)×20×3 039

(132)×22×5 039

(127)×23×4 081

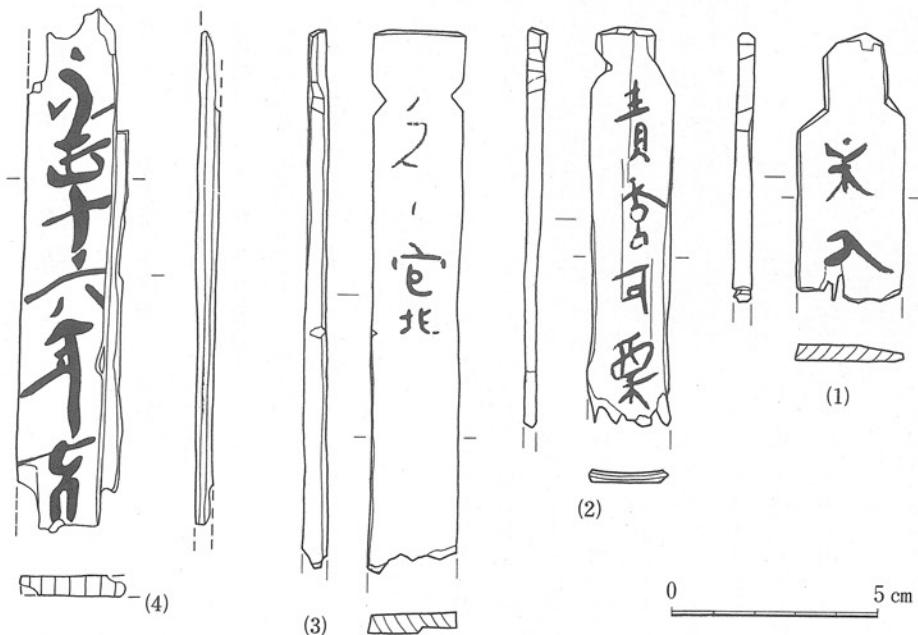
(1)~(3)は墨が薄く、肉眼では判読できない。(2)の一文字目は「責」、三字目は「可」のようにも見えるが、意味も通じず、不明である。

(3)は「宅」とした文字の前にも墨の付着が見られるが、文字かどうかかもわからない。(4)の永正一六年は一五一九年にあたる。本願寺が大坂に移される直前の年代である。

9 関係文献

(財)大阪市文化財協会「森の宮遺跡II」(一九九六年)

(平田洋司)



(1)

(2)

(4)

(3)

(1)

5 cm



(大阪東南部)

大阪・長原遺跡

ながはら

所在地 大阪市平野区長吉長原

調査期間 一九九二年(平4)四月

発掘機関 (財)大阪市文化財協会

調査担当者 清水和明

遺跡の種類 集落跡

遺跡の年代 後期旧石器時代～近世

遺跡及び木簡出土遺構の概要

長原遺跡は河内台地の北端部、「瓜破台地」と呼称される台地から平野部に移行する位置に広がり、旧大和川水系や羽曳野丘陵から

北流する旧東除川などが造りだした複雑な地形を内包

している。発見された遺構・遺物は、低位段丘層に

包含される後期旧石器(平
安神宮火山灰降灰以前)まで
溯ることができる。長原遺

跡の調査は、(財)大阪文化財
センターや長原遺跡調査会